



"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

The service club of the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF NISHINOMIYA



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB -- CHARTERED MAY 17TH, 1948

主 題 (2009~2010)

- ・国際協会会長 『The Power of One』 「一つとなる力」
Kevin Comming (Canada カダ)
- ・アジア地域会長 『The Power of One』 「一つとなる力」

スローガン 「Dreaming Asia, Loving Asia」
「夢見るアジア、愛するアジア」

Chon Byung-Koo (Korea)

- ・西日本区理事 『すべてのいのちを大切に』
「Love & Care for All the Living Things」
-いのち・平和・環境- -Life, Peace, Environment
鈴木 誠也 (神戸ポートワイズメンズクラブ)

- ・六甲部 部長 『希望の^{ほしび}灯 となろう』 「Be the Light of Hope」

大田 厚三郎 (神戸西クラブ) - 地域社会を励ます活動を実践しよう -

- ・西宮クラブ 会長 浅野 純一 『奉仕活動を行えることに感謝し、力を合わせて今一步活動の輪を広げよう』

2010年2月 西日本区強調ポイント T O F ・ C S ・ F F

T O F ・ C S ・ F F 資金はワイズ活動のエネルギーの源、おいに活用しましょう。

2010年2月第1例会のご案内

日時: 2010年2月19日(金) 19時~21時

場所: 西宮YMCA保育園3F

ドライバー: 清水 彬久メン 阪根 新メン

1. 開会点鐘 浅野会長

2. ワイズソング 一同

3. 聖句朗読

4. ゲスト紹介 浅野会長

5. ゲストスピーチ 鶴飼卓(うかいたかし)氏

NPO災害人道医療支援会(HUMA)理事長

西宮病院名誉院長・兵庫県災害医療センター顧問

お話し 緊急人道医療支援について

- その現実と課題

6. 今月の誕生日のお祝い

7. Y's ニュース 浅野会長

8. YMCA 報告 三島主事

9. 閉会点鐘 浅野会長

今月はT O F 月間のため食事はありません

・当日F・F(ファミリー・ファンド)の献金をします

2010年2月

741号 60周年

63期8号

since 1948.5.17

スポンサークラブ
大阪クラブ
DBC
近江八幡クラブ
広島クラブ

クラブ主役員

会 長 浅野 純一
直前会長 濱 浩一
副会長(次) 馬場 一郎
副 会 長 岩田 健司
書 記 廣瀬 一雄
書 記 岡田 佑一郎
会 計 山本 常雄
会 計 足立 康幸
監 事 阪根 新
監 事 小野 勲紘
担当主事 三島 浩司
六甲部代議員 山口 政紀
部メネット主査 浜美智子
区事務局員 小野 勲紘

今月の聖句

『そこで、わたしは言っておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。』

ルカによる福音書 11章9~10節

清水 彬久メン 選

1月 例会出席状況 在籍会員数 19名

第1例会(1.22金) 第2例会(1.9土)

メ ン 11名 メ ン 7名

メネット1名ゲスト1名 メネット 0名

合計13名 (出席率78%) 合計7名

Happy Birthday To You

お誕生日おめでとうございます

3日 小野勲紘メン 12日 阪根紀子メネット

21日 山本常雄メン 25日 長井多美子メネット

会長メッセージ 浅野純一会長

阪神・淡路大震災から15年が経過しました。ついでこの間の出来事のように思います。15年目の日の夕方、東遊園地の慰霊会場に行き哀悼の気持ちを捧げってきました。広場の真ん中に震災で亡くなった方のお名前が刻まれています。それらの方々が一瞬のできごとで人生を断ち切られたことを思うと誠に残念に思いました。改めて震災で亡くなられた方のご冥福をお祈りします。また、震災によって会社が大変な目に遭い、脳梗塞で倒れた方もいらっしゃいます。仕事が震災以前のようにできなくなり、人生を大きく変えられた方のことも思い出します。それにしても「生と死」を分けたものは、ちょっとした偶然がほとんどでした。死という人生最大の問題がほんのわずかな偶然で受け入れざるをえないことがあることを知りました。

私は近くの住吉小学校に家族を連れて避難しましたが、その途中、倒壊した家の下敷きになっている人がいると、助けを求める人がいました。私は靴を履いておらず、地震のことが十分に把握できてなかったこともあり、奥深く入って助けることはしませんでした。今でも大きな後悔となっています。「厳しい状況で何ができるか」日頃から考えて、心の鍛錬しておくべきだと考えています。

1月17日の5日前(日本時間では4日前)、ハイチで大きな地震が起きました。すでに17万人(1月28日現在の情報)の方々が亡くなったとのことです。ハイチYMCAも大きな被害を受け、関係者で亡くなられた方もおられます。心から哀悼の意を捧げたいと思います。なお、われわれの兵庫県の佐用町で昨夏、台風による水の被害がありました。未だ行方がわからない方もおられます。そのことも忘れないようにしたいと思います。

第1例会の報告

ドライバー 馬場一郎メン

2010年1月第1例会は、「サポートプログラムの現

状と課題」というテーマで、西宮 YMCA サポートプログラム講師、新田展子先生にお話をいただきました。出席者は体調を崩された方もおられ、少なくなってしまいましたが、質問もたくさん出て、いろいろな話し合いができ、充実した時間を過ごすことができました。

今回のドライバーは、私と三島さんですが事前に話し合いをし、私の意見を取り入れてもらいました。私自身、西宮のサポートプログラム(当時LDクラス)の立ち上げから関わってもらいました。西宮クラブにも多大な支援をいただき、宮地 清メンが会長を努められた1999年度には、1年間かけての「LDクラス 市島お米づくりプログラム」を西宮クラブ主催で開催したりもしました。実はサポートプログラムの担当者は、1994年度設立当時、田畑さんが担当で西岡先生がフルタイムに近い形で関わってくださっていました。しかし、田畑さんが退職し、西岡先生も辞められ、その後中心で担っておられた谷川さんまで社会福祉法人に異動されました。そのあたりのことも含めて、今一度サポートクラスの現状と課題を西宮クラブの皆さんと共有したいと思い、今回の内容を考えました。西宮クラブは人的にも資金的にもサポートクラスを支援してきました。その支援は今、的を得ているのか、これからの支援はどうあるべきなのか。そのいうことを皆さんで話し合えたらいいなあという思いをもった企画でした。

新田先生からは、LD児、発達障がい児、今クラスに来ている子どもたちのことをパワーポイントで、絵や写真を使いながら、わかりやすく説明していただきました。西宮クラブの皆さんは、LDクラス設立当時から、LD児理解研修には何度か、参加していただきましたので、久しぶりの復習になった人も多かったと思います。神戸 YMCA 全体のサポートプログラムの概要にも触れていただきました。現状としては 保護者への支援 卒業後の進路 指導者養成が大きな課題だと思いました。実は新田先

生の話の後に三島さんから、神戸 YMCA としての将来展望をお聞きしたいと思っていましたが、三島さん自身が風邪でダウンされ、その話にまでは至りませんでした。

西宮 YMCA が先駆的に始められた LD プログラム。その内容は本当に YMCA が担っていくことが使命のような、全人的に子どもたちにアプローチするプログラムである、と私は考えています。西宮クラブとしてこれからどんな支援ができるのか、皆さんといっしょに、じっくり考えていけたらいいなあと思っています。

出席者は浅野メン、足立メン、岡田メン、小野メン、清水メン、長井メン、濱メン、濱崎メン、廣瀬メン、山口メン、山口メネット、ゲスト宝塚クラブより多胡メンでした。

ワイズニュース

浅野純一会長

1. クラブ記念例会

(1) 神戸クラブ 80 周年記念例会
2月20日(土) クラウンプラザホテル神戸

(2) 熊本クラブ 60 周年記念例会
2月20日(土) 熊本ホテルキャッスル

(3) 京都エイブル 20 周年記念例会
2月20日(土) 京都ホテルオークラ

(4) 滋賀蒲生野クラブ 20 周年記念例会
3月7日(日)

2. その他行事

(1) 旧西部交流会(「カニを食する会」)
2月6日(土)午後1時 鳥取市賀露港西浜

(2) 六甲部4年以下会員研修会及び懇親会
2月27日(土)午後1時
神戸YMCA及び竹友クラブ

(3) 京都部メネット会 チャリティーイベント
2月28日(日)午前11時30分~午後2時
ウエスティン都ホテル京都
会費6,000円

3. 登録が始まっています

(1) 西日本区大会 6月12日(土)~13日(日)

広島国際会議場

第一次締切 3月31日(水)

第二次締切 5月17日(木)

(2) 横浜国際大会 8月5日(木)~8日(日)

パシフィコ横浜 早期締切 4月30日(金)

後期締切 7月22日(木)

インターネットでも登録できます。

西宮YMCA保育園だより

三島浩司メン(保育園園長)

(西宮YMCA保育園だより1月号より)

1月の主題:じっくりと

7月はキャンプ、9月は運動会、12月はクリスマス会。この1年間に保育園の中でも様々な行事を行ってきました。キャンプでは、親と離れてのお泊りへの不安。運動会やクリスマス会では、うまく競技、演技ができるかどうかといった不安等々。子どもたちは、それぞれの行事に様々な不安と緊張を持って望み、一つ一つ乗り越えてきました。そして、それぞれに見違えるほどたくましくなったと思います。この、不安や緊張を乗り越えてきた子どもたちの力はどこから湧いてくるのでしょうか。保護者の皆さんや お友達や先生達の励まし。勿論それもありますが、これまで卒園していった先輩達の姿への憧れが、大きな力になっているように思います。ひまわり組やすみれ組だけでなく、たんぼ組やちゅうりっぷ組の子どもたちがクリスマス会の聖劇のまねをしている姿をみていると、この「憧れ」が、子どもたちの中に秘められた大きな力を引き出しているように思います。たくましくなった子どもたちにとって、大きな不安や緊張を覚える行事のない1月、保護者の皆様とも力を合わせて、子どもたちがじっくりと落ち着いて遊び、生活できるように配慮していきたいと思います。この1年もよろしくお願ひいたします。

昨年末に、大間のかつお釣り漁師を取り上げた番組があり、その中で、この2年余り釣り上げていない漁師のお話がありました。仲間の漁師が「釣れないのは、釣りたいという気持ちが弱いからだ。」と叱咤激励していましたが、この漁師は「優しさ」の余り、多くの漁師がひしめき合っているところでは遠慮してしまい、釣り糸を投げ入れることができない、というようなお話でした。また、大手の旅行代理店に勤めている元リーダーとお話した時には、会社の中ですさまじい「いじめ」があると訴えていました。不器用なのか、努力してもなかなか数字が上がらない社員を容赦なく責めている様子に我慢できないというお話でした。この漁師、社員はダメな人間でしょうか。自殺者の数が、10年以上も3万人を超えています。また、無保険の子どもも3万

人を超えています。

1月の聖句の前には、「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ」と書かれています。目に見えるものではありませんが、「苦しみや喜びを分かち合い、共に歩む心」を大切に日々を歩んでいきたいと思います。

1月聖句：一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

(コリントの信徒への手紙 12章26節)

リーダー会だより

西宮・宝塚YMCAリーダー会 まつもと かずや 松本 和也さん

いつも西宮・宝塚YMCAリーダー会をご支援 いただきありがとうございます。

昨年12月26日～30日まで信州志賀高原中高生スキーキャンプに参加してきました。体型も精神的にも大人になりつつある中高生に僕たちリーダーが何を伝えることができるのか、仲良くなれるのかといった不安を抱えながら当日を迎えました。

集合場所で初めて会う中高生はやはり緊張しているのか、周りを寄せ付けない雰囲気でした。しかし、そんな雰囲気もバスに乗って何時間かすると、隣同士で笑いあったり、全員でゲームをしたりと キャンプを楽しむ姿に変わり始めました。初日の晩には全員で話し合いをし、グループ対抗の「パリコレ」大会を3日目の晩にすることになりました。男の子が女の子に服を借りに行くことは、とても照れながらもその後のキャンプで関わり 合うきっかけになったと思います。

2日目からはレベル別のスキーの講習も始まり ました。ワッペンテストに合格しようとインストラクターの見本を見る目は真剣で、天候にも恵まれてスキーを楽しく滑りました。急斜面や悪状況などの環境に合わせて、小回りや大回りをしながら 山頂から滑ることはとても気持ちがよく、まさにスキーキャンプの醍醐味を味わいました。

そして、準備してきた「パリコレ」大会では男の子が美しい女性になりきったり、女の子がかっこよくエスコートしたりと各グループが工夫を凝らした発表を行いました。優勝したグループもそうでないグループも、自分たちで作ってきたプログラムに時間を忘れて楽しんでいました。このように年齢も性別も違う人たちと生活を共にし、1から自分たちの手でキャンプを作っていくことが中高生 キャンプならではの楽しさではないかと思えます。またキャンプ中は楽しいことだけではなくつらいことや悲しいことも経験し、メンバーとリーダーそれぞれが悩み考えました。そのこともきっと それぞれの成長につながるでしょう。

2010年も子どもたちの側で共に成長できるよう、リーダー会一丸となって頑張っていきます。



西宮YMCA 三島浩司メン

YMCAでは、新年度に向けてのプログラムの 受付が始まっています。2010年度は、2008年度より西宮市から指定管理者制度で管理運営を受託していた用海留守家庭児童育成センターに加え、浜脇留守家庭児童育成センターの管理 運営も受託することとなりました。用海は定員 100名、浜脇は160名と、西宮市の南西部 地域で多くの子どもたち・保護者への子育て・子育て支援の拠点が広がります。YMCAの様々なプログラムへ参加くださる方々と共に、一人でも多くの子どもたちや若者達のいのちが光り輝くことを願って活動を進めていきたいと思いますので、今後も変わらぬご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

1. 新年職員礼拝と Staff of the Year 2009 表彰

1月4日、中道基夫副会長にお越しいただき、多くの職員の皆さんと共に新年礼拝を守ることができました。中道副会長からは旧約聖書の詩編33編の箇所から「新しい歌を主に向かって歌え」の意味を考えるお話をいただきました。「新しい歌」とは何か。YMCAにとって2010年という年に「新しい歌」を歌えるように考えつつ歩みたいと思います。新年礼拝の後、今年も Staff of the Year の表彰が行われ、5名の方々に Staff of the Year 2009 を贈り、大きな動きに感謝が表されました。今回の表彰者は以下の方々です。

大津 創さん(西神戸ランチ 準専任講師)

サッカーの枠に留まらず、YMCAの様々な活動について主事職の役割の一部を担い、職責を果たしてくださいました。今年度はオール神戸のサッカーイベントの運営主担当を担う他、ランチの幼少年プログラム、須磨への応援なども行ない、他の指導者やボランティアの良き模範となりました。

住田 美里さん(太山寺児童館 常勤的非常勤職員)

地域の子どもの育成事業、子育て支援、地域交流活

動促進・交流事業に関わり、一人ひとりを大切に育てる視点で接し、子どもたちの居場所としての欠かせない存在になっています。学生ボランティアを組織し、子どもの作詞作曲体験プログラムや落語会の実施など能動的な関わりでチャレンジしてくださいました。

藤井 尚子さん(ウエルネスセンター学園都市 専任講師)

成人のプールケアと幼少年をメインに担当し、非常勤・アルバイトへの安全研修を積極的に行いました。幼少年担当者として同僚、後輩の良き相談相手として信頼を得ています。三宮のバスケットクラスも担当し、自身のスキルアップにも努められました。

寺岡 和紗さん(三宮ランチ 事務職)

幼少年活動の事務の主担当として、様々な異例な事態が発生した年度でしたが、滞りなく対応しました。長時間、多種のプログラムを有するランチの業務にも関わらず、全面的に事務所を守る姿勢で、いつも笑顔を決やさず何事にも冷静に対応し、多くの方々からの信頼を得ています。

竹林 由佳さん(西宮ランチサポートプログラム 専任講師)

メンバー及び保護者への丁寧かつ誠実な対応によって、絶大な信頼を得ています。今年度はLD学会にて、研究成果を発表し、精力的に発達障がい児理解・支援の啓発に取り組んでいます。また、関西の合同講師会でも企画立案に関わり、リーダーシップを発揮しています。

2. 新春YY(ワイワイ)フォーラム、盛大に開催

1月9日、恒例の新春ワイワイフォーラムが、ワイズメンズクラブ六甲部との共催で開催され、ワイズ、ボランティアリーダー、一般会員、職員、講師など150名を超える方々の参加がありました。今年は初めてユース委員会が準備の責任を担うということで、若い人たちのパワーが溢れるフォーラムとなりました。テーマは「YMCA 発！ 世の中を明るく元気にするプロジェクト」ということで、古澤啓太牧師(神戸東部教会、ユース委員)の奨励による礼拝から始まり、セッション から まで趣向を凝らしたプログラムが用意されていました。その中で、グループ討議があり、グループごとのアイデアがまとめられ報告されました。また、YMCAのクラブ活動の紹介やユースの発表などもあり、盛りだくさんのプログラムに時間の経過を忘れるほどでした。神戸YMCAには、このような多くのユースが集っていて、ある役割を担ってくださっていることに感謝し、またこのパワーが神戸YMCAの宝であることを再認識させられたフォーラムでした。

3. 草地賢一さん召天10年記念式、開催

1月11日、神戸YMCAの主催行事ではありませんが、元神戸YMCA主事であった草地賢一さんが天に召されて10年を記念する会が、県民会館で開催され、200名を超える多くの方々から草地さんを偲んで出席されました。草地さんは1941年にお生まれになり、関西学院大学神学部卒業の後、神戸YMCAに入職。その後、神戸、姫路、同盟、横浜と移られましたが、YMCAで様々な働きをされました。チェンマイYMCAへの派遣主事としても活躍されました。1984年からはPHD協会の総主事として神戸に戻られ、1995年の阪神大震災以降は、地元NGO救援連絡会議の代表として震災復興に尽力され、現在のCODE(海外災害援助市民センター)に繋がる災害救援活動の専門家として活躍されました。1999年のパプアニューギニアの津波災害の救援活動から帰国後に体調を崩され、2000年1月に58歳の若さで逝去されました。そして、10年、草地さんの多くの仕事が今後継ぎによって継がれていますが、10年を記念して、再度どのように継承するかがテーマとなった記念式が開催されたということです。

4. ちょっとうれしいニュース

1月6日、ある老夫婦がYMCAに御礼をしたいと、水野総主事の元へ訪ねてこられました。このご夫妻は、今から55年前に中山手にあった第3期会館時代の神戸YMCAのチャペルで、当時の総主事であった本城敬三さん(第4代総主事)のお世話で結婚式を挙げられました。あの頃は若く何の御礼もできなかったもので、ということで寄付を頂戴しました。55年も経過しているのにも関わらず、YMCAを思い出していただき多くの寄付を頂いたのは感激で嬉しいことでした。たまたま、その当時も会館におられたはずの今井鎮雄顧問も同席され、昔話に花が咲いたということです。

5. 阪神淡路大震災15年

1995年1月17日早朝の激震から15年が経ちました。毎年、この時期になると震災の時を思い出しますが、今年は特別に15年という歳月を思い、皆さんの中にもそれぞれの思いが湧き出ていることだと思います。神戸YMCAでは15年の特別な行事はありませんでしたが、指定管理で運営している文化体育館においてゴスペルコンサートが17日午後開催され、

総勢1700名の方々が集りました。このために特別編成された500名のクワイアが数回の練習を重ねて舞台に立ちました。その中には神戸YMCA混声合唱団くさぶえのメンバーの顔もありました。プロも参加したコンサートでしたが、大変盛り上がった素晴らしいコンサートで、これが一番被災の大きかった長田の地で開催されたのは意味あることだと感じました。

今年1月16日の毎日新聞の「花時計」(声)欄にYMCAのボランティアについての投稿が載りましたので、転載します。

「1月17日の阪神大震災。布団の中でこのまま死ぬんだ、と思った。その日の数日前、市内で高齢者が最も多い地区と新聞で読んだばかりだった。夫と娘、私は無事だった。救援物資があると知っていたが、私たちへは何も無い。娘が市役所に行くと出かけ、1時間程たった時、YMCAの車が2台、家の前に止まった。娘はまだ帰って来ないので、私は「水や食べ物 came ました」と叫びながら家の裏の小道を走り回った。

娘は市役所へ行く途中にあるYMCAに飛び込んで、住所を告げてから市役所に行ったという。市役所には救援物資が山積みになっていたと話していた。

私はYMCAの機敏な行動に感謝した。翌日また来られた。その時も裏の小道に入ってもらい、運ぶ力のない人たちを助けていただいた。高女時代の先生、新年会で隣に座った友達も亡くなった。心からご冥福を祈ります。」(加東市・石川郁子さん84歳)

6. 財団法人第5回理事会、第4回評議員会報告

1月20日、財団法人の理事会・評議員会が開催されました。主たる議題は2010年度全体方針案、予算案についてでしたが、いくつかのご意見をいただきました。全体方針、予算、年間行事など新年度に関する案件は、3月の理事会・評議員会で最終決議され、新年度に向かっていきます。尚、報告事項としてお伝えしたことに、公益財団法人申請の経過報告がありますが、お伝えしていますように、神戸YMCAは昨年11月9日に公益財団法人への移行認定申請を済ませています。ただ、未整備な事項が多々あり、認定までまだ時間を要する模様です。

7. ハイチ救援街頭募金活動、実施

1月24日午後、元町の大丸前で、ハイチ大地震救援のための街頭募金を実施しました。お天気はすばらしく晴れ上がった日でしたが、気温は低く寒い一日でした。それでも30名近いボランティアが集って、大きな声

で募金を呼びかける活動を行いました。ボランティアには余島や国際のリーダー会から、また日本語学科の留学生、ワイズメン、スタッフが集り、隣に居坐る右翼の街宣車の大音量にもめげず、募金活動を続けました。成果は19万円余と報告されていますが、大変大きな募金を集めることができました。この募金活動は3月末まで実施されますので、今後ともご協力よろしく お願いいたします。

8. 今後の予定

1) 神戸YMCAサポートプログラム15周年記念講演会

神戸YMCAが西宮ランチで学習障がいの子どもたちのためのプログラムを開始して15年になるのを記念したイベントが開催されます。是非、ご参加ください。

日時：2月28日(日)13:00~17:00

場所：よみうり神戸ホール

内容：基調講演

「コミュニケーションの力を育む」
中川信子氏(言語聴覚士)

シンポジウム

「さまざまな角度からのアプローチ」

竹田契一氏(大阪医科大学)他

参加費：1,500円

2) 青年会第3回常議員会

日時：3月15日(月)18:30~20:30

場所：神戸YMCA 4階 サイコー亭

3) 学校法人第3回理事会・評議員会

日時：3月23日(火)18:00~20:00

場所：神戸YMCA 4階 サイコー亭

4) 社会福祉法人第3回理事会・評議員会

日時：3月24日(水)18:30~20:30

場所：神戸YMCA 4階 サイコー亭

5) 財団法人第6回理事会、第5回評議員会

日時：3月29日(月)18:30~20:30

場所：神戸YMCA 4階 サイコー亭

6) マザー・テレサ生誕100周年記念写真展

~マザー・テレサは生きている~

日時：3月25日(木)~4月8日(木)11:00~19:00

場所：神戸新聞社ギャラリー(JR神戸駅徒歩5分)
入場：無料

2010年2月は維持会員増強月間！！

今年度も維持会員を多く獲得したいと以下のように強化月間を設定しました。是非、イベントに知人、友人の方々をお誘いくださり、お勧めください。

Yサポーター・ウエルカム・キャンペーン
～維持会員募集月間～

1. 維持会員のついで「落語の会～笑う門には福来たる～」
昨年も行いました落語会を今年も開催します。お友
だちをお誘いください。

日 時：2月 6日(土) 13:30～15:30

場 所：神戸YMCAチャペル

出 演：林家染左さん・笑福亭由瓶さん

会 費：無料

*事前にお申込ください。

2. 第24回午餐会

日 時：2月13日(土) 12:00～14:30

場 所：神戸YMCA 4F サイコー亭

テーマ：「安心できる相続準備
～遺言状よもやま話～」

講 師：田中久喜さん(みずほ信託銀行神戸支店^{プラ}ライ
バ^バンク 室上席室長)

会 費：3,000円

水の流れるまはらに26

(俳句) 山野 直行(小野勅紘)

・除夜^かに入り 除夜に出でにし 離れ方に

(年末の除夜の鐘を聞く時は、1年の間の様々な出来事を思い出す。いいことばかりではなく、思い出したくないことも多い。特に愛する人との別れたことは忘れることが出来ないし辛い。親、兄弟、友人、恋人。しかし、一旦除夜の鐘を聞いたらもう新年。新しい年を迎えて全て忘れて再出発したいものだ。)

・落葉の 形に似たる 孫の指

(昔、東京は千駄ヶ谷の寮に住んでいたころ、周辺は色んな文化、スポーツ施設に囲まれていた。その中でも神宮外苑は緞子の散歩道、青山に続く落葉の道を散歩していると、向こうから孫らしい幼児を連れた初老の紳士とすれ違った。孫の手にはその指と同じ形をした紅葉がしっかりと握りしめられていた。)



・新玉の 街の灯りに 通ひ来る

(2010年の新年が明けて、渦森台の実家から神戸の街を眺めていた。新しい年を迎えて、人々が灯りに集まってきて、またその営みが始まった)

音を重ねる日々は心を重ねる日々に-46



楽団あぶあぶあ&ミュージカルチ
ムLOVE 代表ひがしの ようこさん

音を重ねる日々は心を重ねる日々に

- 46 今月もお休み 濱 浩一

ン

西日本区だより-10

小野勅紘西日本区理事事務局スタッフ

「折りづるラン」スタート



神戸YMCAでの壮行会(仁科次期理事の応援挨拶)

今期の西日本区は折り返し点を過ぎて、追い込みに入りました。神戸では阪神淡路大震災から15年の節目を迎えましたが、折りしもハイチでは大きな地震被害が出ています。

大災害を目にするたびに感ずることは、支援の仕方や被災者の態度です。確かに中国四川省やインドネシア、ハイチの地震は阪神淡路大震災を遥かに上回る規模です。しかし、テレビの報道の様子では日本ではまず起こらないような事態に震撼します。無秩序に食料を奪い合い、人道を無視した救援活動です。

我々が誇りに思うのはどんなに窮しても誇りと恥じらいと勤勉さでしょうか。全国から救援のボランティアが集まり、家も家族も失い明日の食料もない中でも、きちんと並び炊き出しのオニギ

リを受け取り、学校や体育館に寝泊りする人々が芳
わりあう姿です。

こういう違いはどこから来るのでしょうか。人は
昔からの武士道だとも言いますが、助け合いの姿勢
があったればこそ、日本は戦後未曾有の経済復興を
成し遂げたのでしょう。日本人の礼儀正さは模範と
されていますが、誇るべき美德だと簡単に片付けな
いで、誰でもが助け合い、自分のように全ての命を
大切にすることが重要でしょう。これこそが隣人愛
を原点とする鈴木理事の主題です。ハイチ救済の活
動はまだ始まったばかりです。皆様のお力をぜひお
貸し下さい。

さて、阪神淡路大震災15周年の1月17日(日)
の午後、鈴木西日本区理事をはじめ六甲部を中心と
する有志の皆さんが神戸YMCAに集まりました。
西日本区大会を支援するために、西日本区理事事務
局スタッフの大野勉メン(神戸ポートクラブ)が、
須磨ウェストバンドの演奏のエールに送られ、森愛
子メネット主任お手製のタスキを掛けて頂き、広島
までの305キロのマラソンにスタートしました。
当日は明石まで走り、鈴木理事の伴走で次週の1月
24日には加古川に到着し、31日には姫路まで走
り、姫路クラブ60周年記念例会に臨む予定でした
が、急遽大野メンのご親戚に葬儀が入り予定を変更
されました。広島に到着の暁には余力を駆って、横
浜国際大会支援で横浜までの500キロにも挑戦と
の意気込みです。我々西日本区一同、無理なく安全
に所期の願いが達成されますよう祈ります。皆さん
ご支援下さい。そして、[西日本区大会と国際大会へ
の登録をよろしくお願いたします。](#)



神戸YMCA前をスタートする大野メン

その後、大野勉さんによる「折りづるラン」は1月3
0日(土)は10時に三宮駅を、神戸ポートクラブの山
崎会長他神戸ポートクラブの皆さんに見送られ、横
浜国際大会登録と成功を祈って一路第二阪神国道
を東に向けてひた走りされました。途中鈴木理事に
加えて神戸新聞社の記者さんも車で伴走し、11時4
0分頃無事西宮YMCAに到着しました。



西宮YMCAにゴールし歓迎を受ける

到着までに、西宮ワイズの浅野会長他、山本、小
野各メンが待機し、三島主事、小寺館長、大石さん
がワイズフラッグ、ゴールテープ、折りづるの旗を作
っていただき、「折りづるレイ」を掛けて頂き出迎える
ことが出来ました。程なく山崎会長、小田メンも到着
し、合流しました。



神戸新聞社の記者さんから取材を受ける大野メン

大野メンは今後、西方面(広島へ)は加古川～姫路間を2月7日に、東方面(横浜へ)は2月11日に西宮YMCA～土佐堀 YMCA 間をランの予定です。道中の無事走破を祈ります。



加古川 明石 神戸 西宮

2.7 1.24 (1.17) 1.30 2.11



ワイズメンズクラブ国際協会西日本区

理事 通信

(1月号より抜粋加工しております)

理事主題 **-すべてのいのちを大切に-**
“Love & Care All Living Things”

第13代西日本区理事 鈴木 誠也



新しい年を迎え、神戸では「阪神・淡路大震災15周年」の行事が行われ、改めて被害の大きさと、復興のすごさ、そして今なお取り残された空き地や人々の痛みを感じさせられております。多くの教訓を与えられ、新たな歩みを進めています。そんな中、またまた、ハイチの大地震を知りました。神戸以上に大きな被害が報道されています。日本YMCA同盟は直ちに、緊急支援として世界同盟に2万ドルを送金し、全国に募金活動を呼び掛けております。カリブ地域として隣国のドミニカが大きな役割を担うことになるようです。お近くのYMCAの行動と協働しながら、募金活動に加わってくださる

ようにお願いいたします。

広島・西日本区大会と横浜・国際大会への登録はお済みでしょうか？できるだけ早く登録をお願いいたします。実行委員会は、必ず成功させねばなりません。一日でも早い登録で安心させてあげてください。二つの大会への参加は大変ですが、歴史に残る素晴らしい大会になります。夫々のクラブ・部で、できるだけ安い移動手段と宿泊を工夫してください。理事事務局スタッフである大野勉ワイズは、登録推進を盛り上げるために、1月17日の阪神・淡路大震災記念日に神戸YMCAを出発し、12回位に分けて広島まで300キロを走ってアピールすることを決断して実行しています。1月31日には姫路に到着する予定です。理事鈴木は出来る範囲で車の伴走をしてみたいです。沿道のワイズの方は応援して頂ければ幸いです。日程・写真報告はHPにアップいたします。横浜への500キロにも挑戦いたします。

予告していましたが、アジア地域のエクステンションに係るガイドラインの変更の為にクラブ投票が行われています。投票権のあるクラブ会長宛に投票用紙が送られていますので、必ず投票に参加して下さいようにお願いいたします。2月23日ソウルのアジア事務所宛必着です。

2月はTOF例会が持たれますが、その中で「すべてのいのちを大切に」弱い立場にある人々を覚えて「祈り、励ます」国際協力募金(ハイチ大震災被災者救援募金)や各種のファンドに目を向けてくださるようお願いいたします。

横浜つづきクラブ例会(西宮クラブとのDB C交流会) 2010.1.23 小野メン

横浜つづきクラブ17名全員、戸塚クラブ1名、湘南・沖縄部長1名、ゲスト
 スピーカー大江 浩氏、西宮クラブ6名(浅野、足

立、岡田、小野、阪根、山口)、宝塚クラブ 1 名(石田) つづきかけはし会館(公民館・無料)

岡田会長



大江浩氏のスピーチ「阪神淡路大震災から始まった国際協力」



横浜つづきクラブのバナー 右は毎年その年の活動を紹介します(バナーの形を取って例会やイベント毎に持参展示)



林理子副会長(ドライバー)



お手製の木製ランチョンプレート 収納ケース
例会の冒頭で全員でワイズの心得を宣誓してから開始

第二例会・・・2月5日(金)午後7時~午後8時55分・・・報告より以下抜粋しております。

「横浜つづきクラブとのDBC締結に向けて」について

横浜つづきクラブは大変立派な活動をされていると感じた。これからさらに交流を深めたい。お互い5～6名のメンバーの交流は深まったと言える。これからはさらに全体的に交流を広げたい。これから長い期間、深い交流を継続できることを念頭に、そして、DBC締結に向けて、さらにお互いに知り合っていきたい。プリテンの交換も交流を深める一つの手段であり、それぞれのプリテンにお互いのクラブのことを掲載することもお互いのことを知る有効な手段ではないか。

トピックス・とびっくす22

廣瀬 一雄メン

小生は現在動物行政の仕事に携わっておりますが、環境省が平成19年3月に発行した“動物の保護及び管理に関する法律のあらまし”という小冊子から前回までの「動物の保護及び管理に関する法律」とは に続いて紹介しましょう。

遺棄の禁止

命あるものである動物の飼い主の責任には、動物を正しく飼い、愛情をもって扱うことだけでなく、最後まできちんと飼うことも含まれます。飼えないからと動物を捨てることは、動物を危険にさらし、餓えや渇きなどの苦痛を与えるばかりでなく、近隣住民にも多大な迷惑になります。また、近年は、日本の自然に生息していなかった外来生物が野外に放たれ、それによる農業被害や生態系破壊が大きな社会問題になっています。

従前「放生」はこのましいこととされている面もありましたが、社会状況や自然環境も変化し、飼われている動物種も多様化している現代においては、動物に不要な苦痛を与え、周辺環境や生態系にも影響を及ぼす行為として禁止されています。



編集後記 プリテン委員長 廣瀬 一雄

二月のプリテン発行が私事都合によりいつもより遅れましたこと、お詫びいたします。

さてそこで、一つご案内をさせていただきます。

あの大阪西クラブが
らのご案内です。

21世紀の杜 カン
ボジアに学校を造ろう
落語・ライブでござ
います。



刻は平成二十二年2月の18日、木曜日。

午後の6時半よりの開演 入場は六の時より受
付がはじまり・・・はじまり・・・

所はあの西日本区役員会の会場たびたび登場
のホテルクライトン新大阪でございます

出演者はあの森乃 福郎、桂 文福 師匠ほかの
皆さんです

会費は五〇〇〇円。お食事および飲み物付き

一部 基金に導入させていただきますとのこと

あの三クラブ合同の60周年祝会での記念品
の一つに大阪西クラブのメネットさんたちの手
作りの封筒でお世話になりました。

あの石合のおばちゃんにもお出会いですよ
ぜひぜひ皆さんご参加よろしくお願ひします

p. s. これからは濱崎メンとメール連絡ができ
るかも・・・

メネット、コメントさんたちのご協力を期待して
おります。どうぞよろしく

